風の少年ムーン

キー作　茅野美ど里訳　偕成社

ぼくは十歳で、父さんから森で生きぬく知恵と術をぜんぶおそわった。ワナで獲物がとれるし、着るものも自分でつくることができる。でも、世の中のことはまったく知らなかった。父さんが死んでひとりになると、つかまって施設へとじこめられた。そこで友だちになったキットやハルと脱走したぼくを、底意地の悪いおまわりが追ってくる。だれのことも信用するな、と父さんはいったけれど、ひとりはもうやだ！

孤独な少年ムーンが、逃亡の末に手に入れたものとは？